特集

狙われているのは高齢者だけじゃない！

あなたの身近にひそむ巧妙な悪質詐欺

「自分は大丈夫」が一番危ない!!

近年、高齢者だけでなく、幅広い世代で
特殊詐欺被害が増加しています。
「まだ詐欺にかかるような年齢じゃない」と思っていたら、
意外なところで巧妙な悪質詐欺に引っかかってしまうことも。
今回の特集では、最新の詐欺の手口や傾向と、
自分の身を守る対策をご紹介していきます。

今回の先生

一般社団法人詐欺防止ネットワーク
代表理事
松田 俊也先生

民間企業にて踏切安全システムの開発に携わった際に、犠牲者の半数を占める高齢者の特性を分析し、特殊詐欺による高齢者被害の深刻さを知る。2016年に詐欺被害の未然防止を目的として一般社団法人詐欺防止ネットワークを設立。ファイナンシャルプランナーの資格も生かし、大切なお金を失わない環境づくりを目指している。

特殊詐欺ってなに？

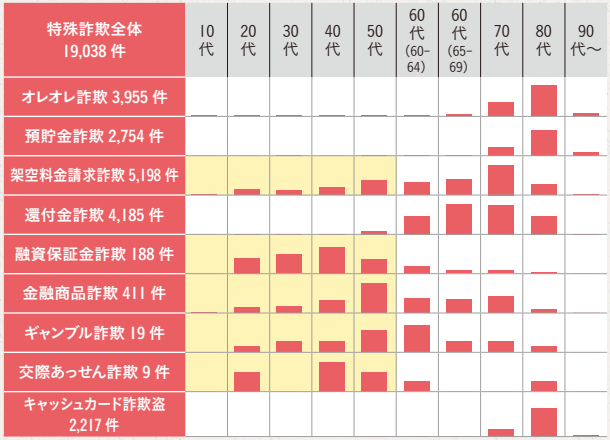
電話やメール、SNSなどの通信インフラを使って、不特定多数を対象にアプローチする詐欺手法。犯人が顔を見せず、特定や追跡が極めて困難なため、損害を取り戻せることはほとんどありません。

現役世代でも、被害者が増加中！

2023年度

特殊詐欺の認知件数 …… **19,038件**

特殊詐欺の被害額 …… **約450億円**



※その他、上記項目のいずれにも該当しない特殊詐欺が102件

20代〜50代の現役世代でも、被害の発生は少なくありません。
架空請求詐欺については、特に被害件数が多くなっています。

あなたも当てはまるかも!?

騙されやすい人チェックリスト

- ☐ プライドが高い
- ☐ 他人を批判しがち
- ☐ 口コミや評価サイトを重視する
- ☐ 職業や肩書きで人を判断する
- ☐ 面倒なことが嫌いで、なんでも他人に任せたい
- ☐ 楽をして儲けることに憧れている
- ☐ 勝ち組になりたい、成功したいと強く思っている
- ☐ 「特別」や「限定」といったワードに弱い

あなたは見破れる？

誰でも引っかかる可能性がある 詐欺の実態とその対策

架空請求詐欺

20代～50代で特に被害が多い架空請求詐欺。被害件数は、2022年から2023年の1年で、1.8倍に激増しています。ここではその最新の手口についてご紹介します。

事例01 自動音声による未納料金請求詐欺

大手金融企業や通信会社をかたり、料金が未納であると自動音声通話で告げ、偽のオペレーターにつないで裁判停止費用などを要求する手口です。

（自動音声）
NTTファイナンスです。**料金未納**につき、法的措置を取ることになりました。コンビニエンスストア等で**電子マネーカードを購入**して、**カード番号を送信**してください。

STOP!

通信会社が、自動音声ガイダンスを用いて、契約状況や回線の利用停止に関する通知を行うことはありません。

事例02 「ウイルス感染」偽警告のフェイクアラート詐欺

インターネットを閲覧中、突然警告音が！ 画面上に警告画面が表示され、すぐにサポート窓口へ電話するよう要求されます。

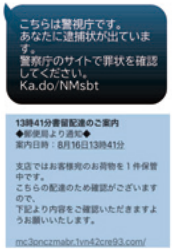
オペレーターは遠隔操作ソフトのインストールや、コンビニの電子マネーカードの購入を迫ってきます。

STOP!

ボタンを押したり、電話をかけたりしなければ、被害を受けないことがほとんどです。警告メッセージ内の「閉じる」ボタンは押さず、閲覧中のタブやブラウザアプリそのものを速やかに閉じましょう。うまく終了できない場合は、再起動でも対処が可能です。

事例03 フィッシング・スミッシング詐欺

警察や銀行、実在の企業などを装ったメールやSMSで偽の公式サイトへ誘導し、IDやログインパスワードを入力させて盗み出す手口です。



STOP!

リンクをクリックすると**偽サイトへ！**

偽サイトは、もはや見抜けないほど精巧になっています。メールやSMSで送られてきたリンクからはアクセスせず、検索して正しいサイトを探しましょう。

事例04 ECサイトの返金手続き詐欺

通販サイトで購入した商品について、決済アプリによる返金手続きを促されます。実際は送金の手続きをさせられ、二重にお金を騙し取られてしまうことに。

インターネットのショッピングサイトで**商品を購入**
↓
ショップから「**商品が用意できない**」などと連絡が入る
↓
「**返金**のため、LINEでのお手続きへ」と**LINEに誘導**される
↓
「**決済アプリで返金**します」と**リンクのタップを要求**される
↓
指示通りに操作したところ、**返金ではなく送金**に

STOP!

購入前にサイト運営者の住所や電話番号、返金規定を確認。LINEでの返金手続きや決済アプリによる返金は拒否しましょう。

事例を知ることが、詐欺への一番の対策です。

詐欺から身を守るためにできること

家族も守る

そうはいっても、高齢者の詐欺被害率の方が高いのは確かです。自分だけが気をつければいいわけではないのが特殊詐欺。大切な人を守るために、日頃からできるサポートを知っておきましょう。

3つの無料サービスを、実家に導入しよう

ナンバー・ディスプレイ／ナンバー・リクエスト

電話をかけてきた相手の番号を表示するサービス。知らない番号や非通知の番号には、自動音声ガイダンスでの対応ができます。

2023年5月より、70歳以上の契約者または70歳以上の方と同居している契約者を対象として、ナンバー・ディスプレイおよびナンバー・リクエストの月額利用料および工事費が無料に（申込先：NTT）

特殊詐欺対策アダプタ

通話を録音し、解析サーバーにて解析。特殊詐欺が疑われる場合には、本人や親族へ連絡が入ります。電話をかけてきた相手への「録音アピール」機能も。

2024年9月30日（月）までに新規申込をした場合、初期費用および一定期間の月額利用料が無料（申込先：NTT）

国際電話ブロックサービス

国際電話番号を利用した詐欺が、2023年5月頃から急増しています。海外との通話が不要な人は、一括でのブロックがおすすめです。
（申込先：国際電話不取扱受付センター）

電話横の「緊急カード」を作ろう

家の固定電話の横に、自分の連絡先を記した紙を設置。「お金の話が出たら、まずは私に相談して！」と伝えておきましょう。

家族間で日常的に連絡を取り合おう

LINEで画像やスタンプを送るだけでも大丈夫。普段から連絡ツールでやり取りしておくことで、いざというときに相談しやすくなります。日々の小さなコミュニケーションが、大きな損害を防ぐのに役立ちます。

自分を守る

焦ったときに思い出したい、騙されないための4つのポイント！

01 警察官や銀行の職員を名乗る人から、お金やキャッシュカードの話が出たら、詐欺!!

警察官や銀行の職員が、口座の暗証番号などを聞くことは絶対にありません。

02 「ATMで返金します」は詐欺!!

ATMでは、お金を受け取る操作は一切できません。

03 「コンビニのギフトカードを購入して、支払ってください」は詐欺!!

「裏面のカード番号を送って」と言われても、送ってはいけません。

04 SNSのメッセージ上でお金の話が出たら、要注意!!

相手から「株」「FX」「暗号資産」など、投資の話が出たら迷わず交流をやめましょう。

これって詐欺かも？どうしよう!?

もしものときの相談窓口

振り込む前にまずは相談

「これは詐欺かもしれない」と感じたとき、実際に詐欺被害に遭ったときは、すぐに信頼できる家族や友人、または下記の窓口に相談しましょう。

〈金融商品・投資関連の相談先〉

- 金融庁金融サービス利用者相談室 0570-016811
  （IP電話からは03-5251-6811）
  ※「事前相談（予防的なガイド）」は下記へ
  0570-016812（IP電話からは03-5251-6812）
- 証券・金融商品あっせん相談センター（FINMAC） 0120-64-5005

〈詐欺・悪質商法の相談先〉

- 消費者ホットライン「局番なしの188（いやや！）」
- 国民生活センター（平日バックアップ相談） 03-3446-1623
- 警察相談専用電話「#9110」
- 通信販売トラブル（日本通信販売協会通販110番） 03-5651-1122